

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年10月1日及び14日に陸奥湾3定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1のとおりで、奥内沖、久栗坂沖、川内沖ともに見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2のとおりで、久栗坂沖で1.7個/トンでしたが、奥内沖、川内沖では見られませんでした。

キヌマトイガイ、ネンエキボヤのラーバは見られませんでした。

2 水温の状況

各ブイの10月14日の平均水温は、表2のとおりです。

表1 ラーバ等の出現状況

単位:個/トン				
調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
奥内沖	H27.10.14	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H27.10.1	0.0	1.7	0.0
川内沖	H27.10.1	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

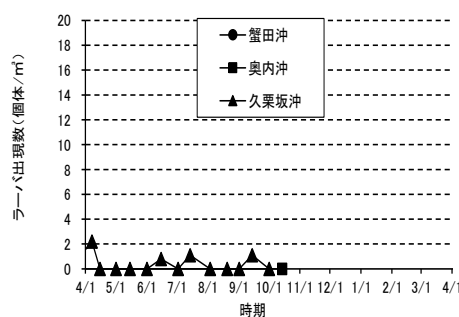


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4~9月は久栗坂・川内のみ)

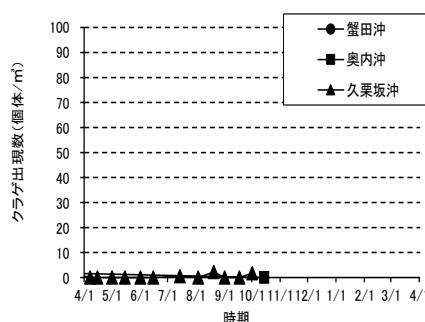
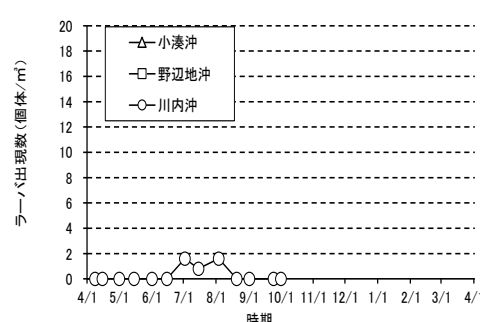


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4~9月は久栗坂・川内のみ)

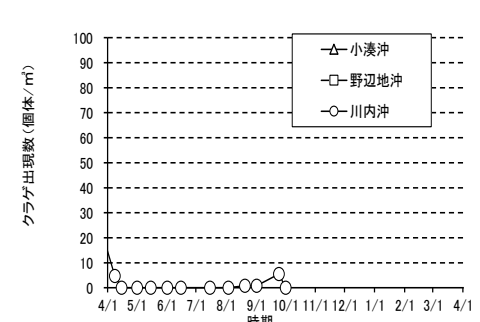


表2 各ブイの中層における日平均水温(10/14)

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	18.3	東田沢ブイ	17.9
奥内ブイ	18.2	横浜ブイ	17.6
青森ブイ	18.4	浜奥内ブイ	17.6

※奥内、東田沢、野辺地、横浜、浜奥内は10m層、他は15m層

3 今後の見込み

ユウレイボヤは一部の養殖施設に付着が見られています。ラーバは現在のところ昨年より少なく、今後の水温の推移にもよりますが、まだ、出現する可能性があります。

また、現在、数cmの小型のオベリアの付着が見られ、これらは成熟してクラゲを放出しています。ラーバ調査でもわずかにクラゲが出現していますが、春先に付着被害を及ぼす大型のものは年明け以降に出現すると考えられます。

ネンエキボヤはラーバ調査では見られませんが、一部地区で、稚貝分散時に引き上げたパールネットにネンエキボヤが付着しています。室内で飼育するとラーバが放出されることから、養殖漁場内でもラーバが発生・付着(1mm程度で見つけにくい)しているものと思われます。

キヌマトイガイ(コメガキ)は、年明け以降にラーバが出現すると思われます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(10月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。



写真1 ユウレイボヤの浮遊幼生



写真2 オベリア類のクラゲ

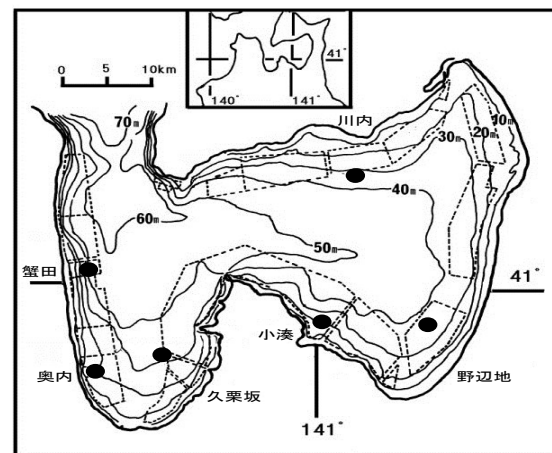


図3 ラーバ調査地点

発行元: 地方独立行政法人

青森県産業技術センター 水産総合研究所

住 所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

id=2184

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード(①)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード(②)

